

# 1 国内産青果物（生鮮野菜・生鮮果実）の流通経路別仕入状況

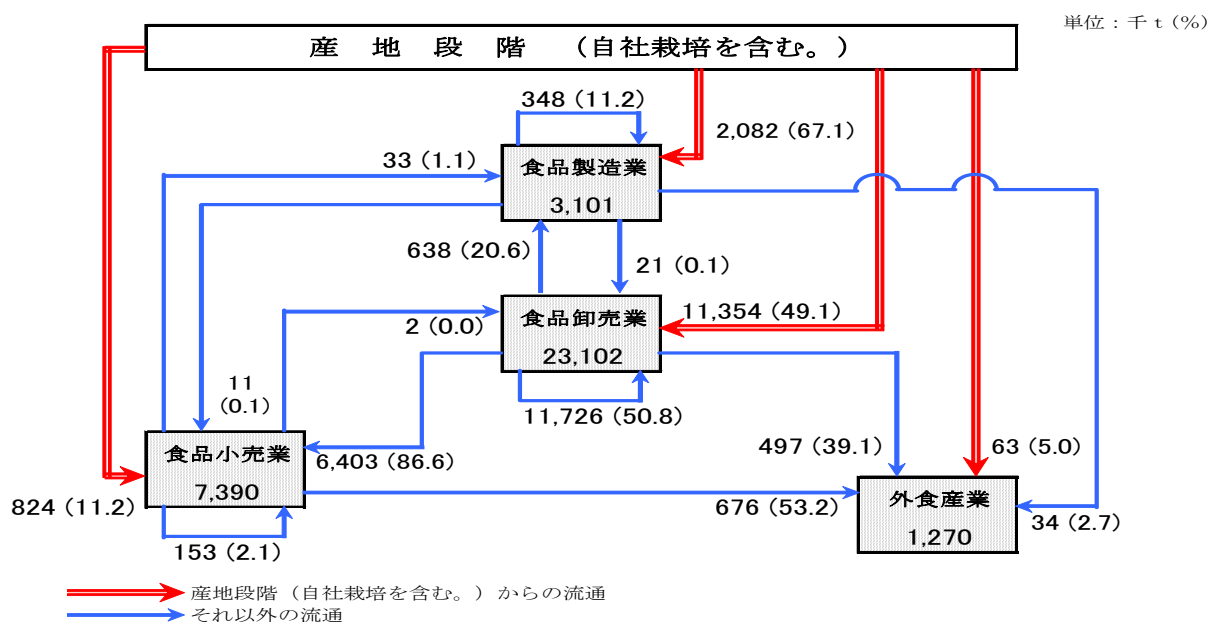
## (1) 国内産生鮮野菜

平成14年度の食品産業における国内産生鮮野菜の仕入量（延べ仕入量、以下同じ。）は、食品卸売業が2,310万2千t、食品小売業が739万t、食品製造業が310万1千t、外食産業が127万tであった。

この仕入量を仕入先別仕入量割合で見ると、食品卸売業では同業種の食品卸売業からの仕入割合が50.8%と最も高く、次いで産地段階（自社栽培を含む。）からが49.1%となっており、食品小売業では食品卸売業からの仕入割合が86.6%と最も高く、食品製造業では産地段階（自社栽培を含む。）からの仕入割合が67.1%と最も高く、次いで食品卸売業からが20.6%となっている。

また、外食産業では食品小売業からの仕入割合が53.2%と最も高く、次いで食品卸売業からが39.1%となっている。

図1 国内産生鮮野菜の流通経路別仕入量



- 注：
- 内の数値は、食品製造業、食品卸売業、食品小売業及び外食産業における同業種間の流通を含む延べ仕入量であり、（ ）内は仕入量（延べ仕入量）に対する割合である。
  - 業種別の仕入先・規模を調査・推定したものであること及び食品卸売業には、製造（加工）を行う事業所、消費者へ直接販売する事業所等が含まれていることから、食品卸売業の仕入量と他の業種が食品卸売業から仕入れた量の合計とは一致しない。
  - この結果には産地段階から直接消費者へ流通するもの等は含んでいない。

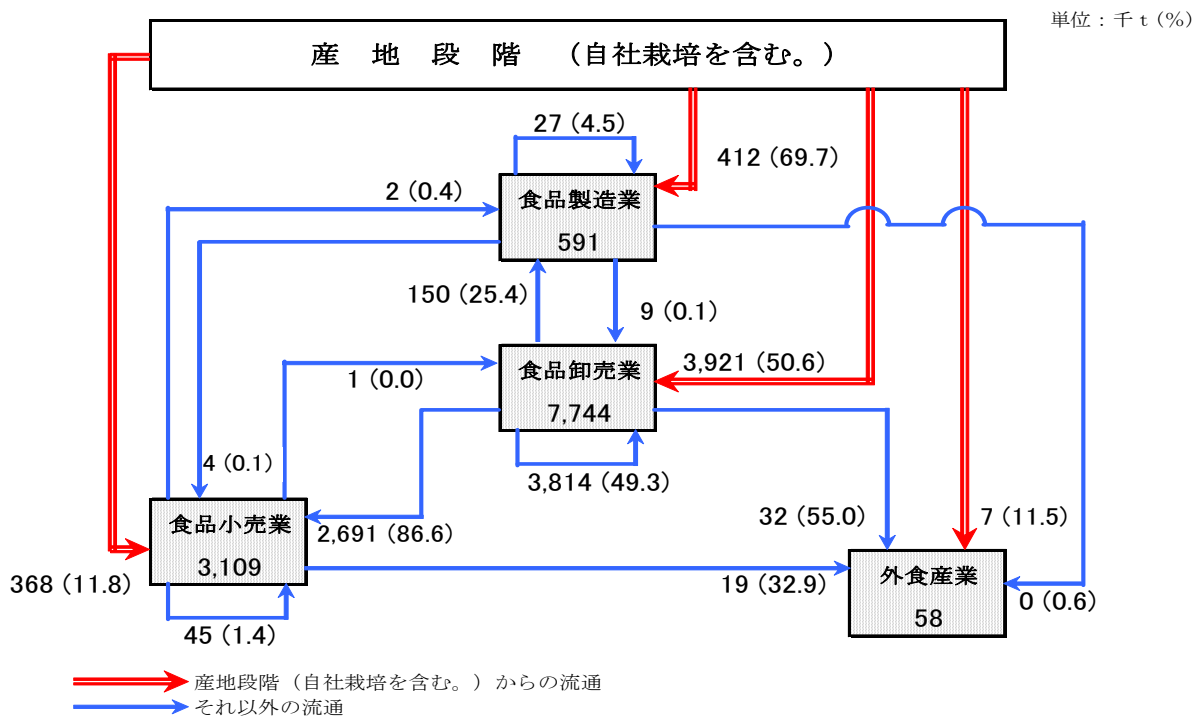
## (2) 国内産生鮮果実

平成14年度の食品産業における国内産生鮮果実の仕入量は、食品卸売業が774万4千t、食品小売業が310万9千t、食品製造業が59万1千t、外食産業が5万8千tであった。

この仕入量を仕入先別仕入量割合で見ると、食品卸売業では産地段階（自社栽培を含む。）からの仕入割合が50.6%と最も高く、次いで同業種の食品卸売業からが49.3%となっており、食品小売業では食品卸売業からの仕入割合が86.6%と最も高く、食品製造業では産地段階（自社栽培を含む。）からの仕入割合が69.7%と最も高く、次いで食品卸売業からが25.4%となっている。

また、外食産業では食品卸売業からの仕入割合が55.0%と最も高く、次いで食品小売業からが32.9%となっている。

図2 国内産生鮮果実の流通経路別仕入量



- 注： 1 □ 内の数値は、食品製造業、食品卸売業、食品小売業及び外食産業における同業種間の流通を含む延べ仕入量であり、( ) 内は仕入量（延べ仕入量）に対する割合である。
- 2 業種別の仕入先・規模を調査・推定したものであること及び食品卸売業には、製造（加工）を行う事業所、消費者へ直接販売する事業所等が含まれていることから、食品卸売業の仕入量と他の業種が食品卸売業から仕入れた量の合計とは一致しない。
- 3 この結果には産地段階から直接消費者へ流通するもの等は含んでいない。

## 2 業種別の仕入状況

### (1) 食品製造業の仕入状況

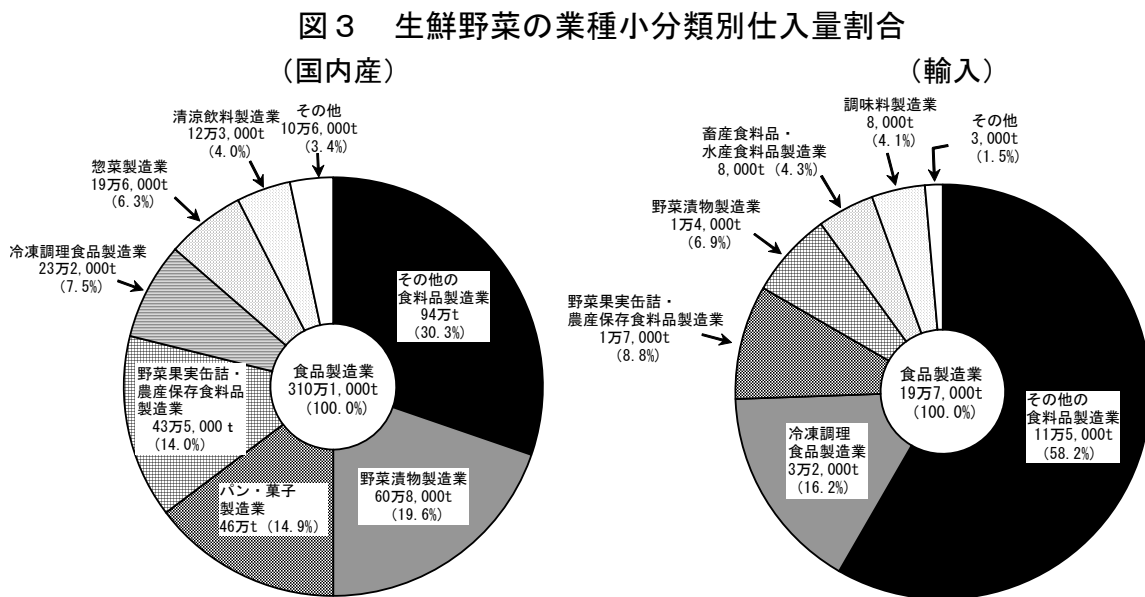
#### ア 生鮮野菜

#### (ア) 仕入量

食品製造業における生鮮野菜の仕入量は329万8千tで、国内産が310万1千t、輸入が19万7千tとなっている。

仕入量を業種小分類別にみると、国内産生鮮野菜では、その他の食料品製造業が94万tと最も多く仕入れており、食品製造業全体の30.3%を占めている。次いで野菜漬物製造業が60万8千tで19.6%を占めている。

輸入生鮮野菜では、その他の食料品製造業が11万5千tで食品製造業全体の58.2%と最も高く、次いで冷凍調理食品製造業が3万2千tで16.2%を占めている。



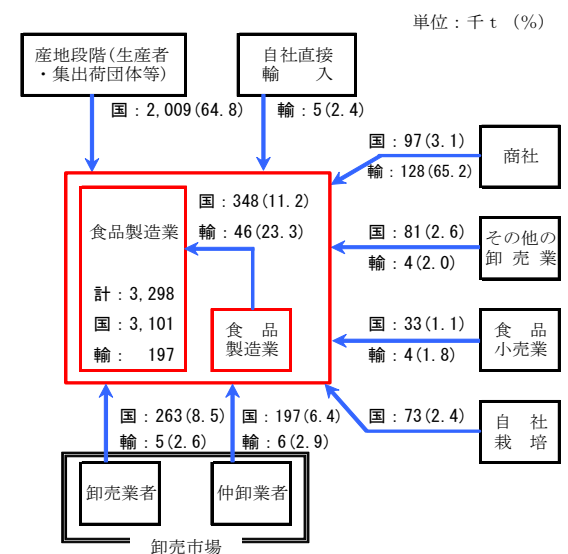
#### (イ) 流通経路

食品製造業における生鮮野菜の仕入先別仕入量割合をみると、国内産は産地段階からの仕入割合が64.8%と最も高く、業種小分類別でみると、特にパン・菓子製造業、清涼飲料製造業及び野菜果実缶詰・農産保存食料品製造業において高く、それぞれ98.9%、96.5%、87.2%となっている。

また、冷凍調理食品製造業、惣菜製造業では同業種の食品製造業からの仕入割合が最も高く、それぞれ47.8%、39.0%となっている。

一方、輸入については商社からの仕入割合が65.2%と最も高く、次いで同業種の食品製造業からが23.3%となっている。

#### 図4 生鮮野菜の仕入先別仕入量割合



注：1 ( )内は、食品製造業の国内産・輸入別仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

2 図表中、「国」は国内産、「輸」は輸入のことである。

イ 生鮮果実

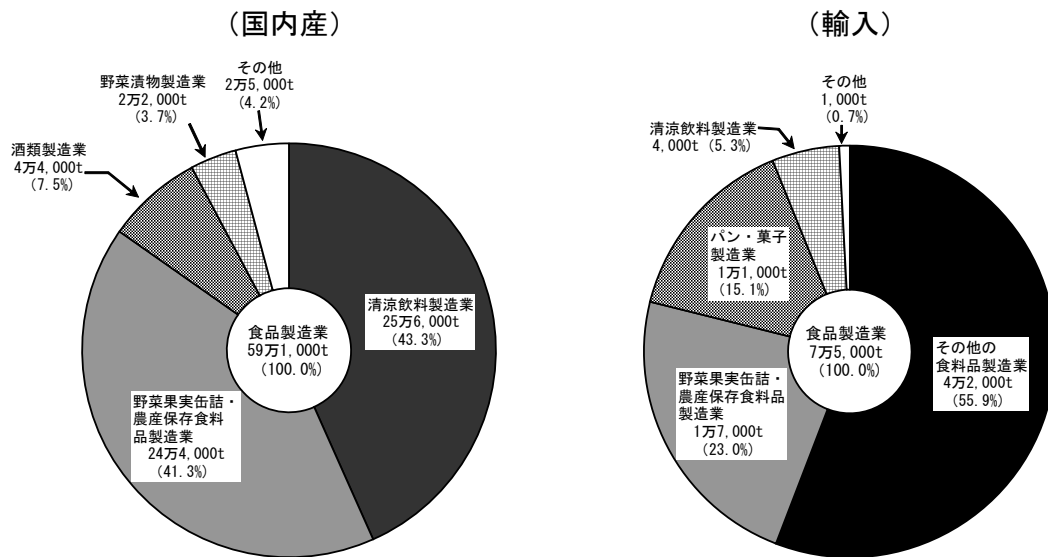
(7) 仕入量

食品製造業における生鮮果実の仕入量は66万6千tで、国内産が59万1千t、輸入が7万5千tとなっている。

仕入量を業種小分類別にみると、国内産生鮮果実では、清涼飲料製造業が25万6千tと最も多く仕入れており、食品製造業全体の43.3%を占めている。次いで野菜果実缶詰・農産保存食料品製造業が24万4千tで41.3%を占めている。

輸入生鮮果実では、その他の食料品製造業が4万2千tで食品製造業全体の55.9%と最も高く、次いで野菜果実缶詰・農産保存食料品製造業が1万7千tで23.0%を占めている

図5 生鮮果実の業種小分類別仕入量割合

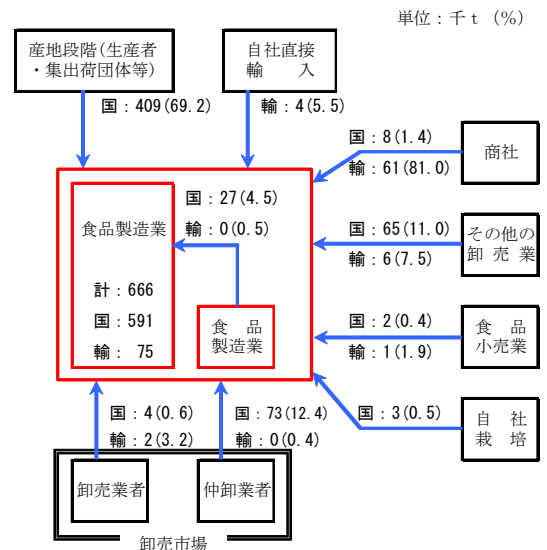


(イ) 流通経路

食品製造業における生鮮果実の仕入先別仕入量割合をみると、国内産は産地段階からの仕入割合が69.2%と最も高く、業種小分類別にみると、年間仕入量の多い酒類製造業及び野菜漬物製造業では、それぞれ97.4%、78.4%と高くなっている。

また、輸入については商社からの仕入割合が81.0%と最も高くなっている。

図6 生鮮果実の仕入先別仕入量割合



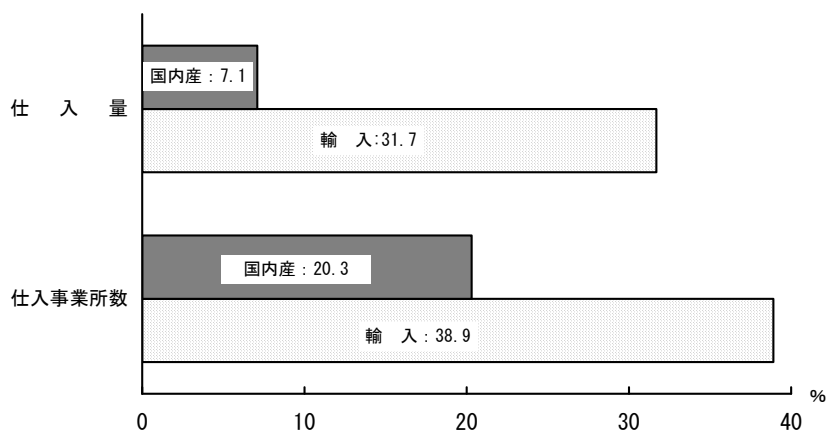
注：1 ( )内は、食品製造業の国内産・輸入別仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。  
2 図表中、「国」は国内産、「輸」は輸入のことである。

## ウ カット野菜の仕入状況

食品製造業における国内産鮮野菜の仕入量に占めるカット野菜の仕入量の割合は7.1%となっており、業種小分類別にみると年間仕入量の多い惣菜製造業及び冷凍調理品製造業ではそれぞれ25.3%、21.1%と高くなっている。なお、カット野菜を仕入れている事業所の割合は20.3%となっている。

一方、輸入生鮮野菜の仕入量に占めるカット野菜の仕入量の割合は31.7%となっており、業種小分類別にみると調味料製造業及び冷凍調理食品製造業でそれぞれ81.5%、76.0%と高くなっている。また、カット野菜を仕入れている事業所の割合は38.9%となっている。

図7 カット野菜の仕入量割合及び仕入事業所数割合



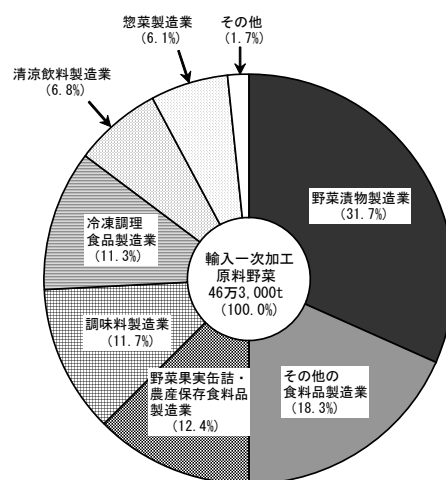
注：国内生鮮野菜または輸入生鮮野菜の仕入量及び仕入事業所数に対する割合である。

## エ 輸入一次加工原料野菜

### (ア) 仕入量（実重量）

食品製造業における輸入一次加工原料野菜の仕入量（実重量）は、46万3千tで、業種小分類別の仕入量をみると、野菜漬物製造業が31.7%と最も高く、次いでその他の食料品製造業が18.3%を占めている。

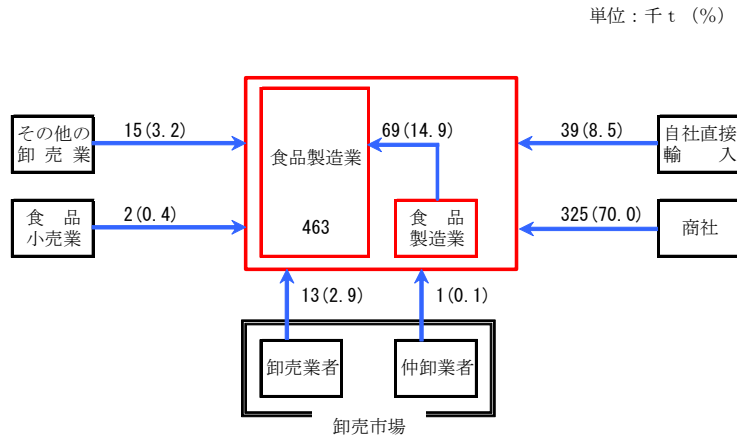
図8 輸入一次加工原料野菜の業種小分類別仕入量割合（実重量）



(イ) 流通経路（実重量）

食品製造業における輸入一次加工原料野菜の仕入先別仕入量割合をみると、商社からの仕入割合が70.0%と最も高くなっている。

図9 輸入一次加工原料野菜の仕入先別仕入量割合（実重量）

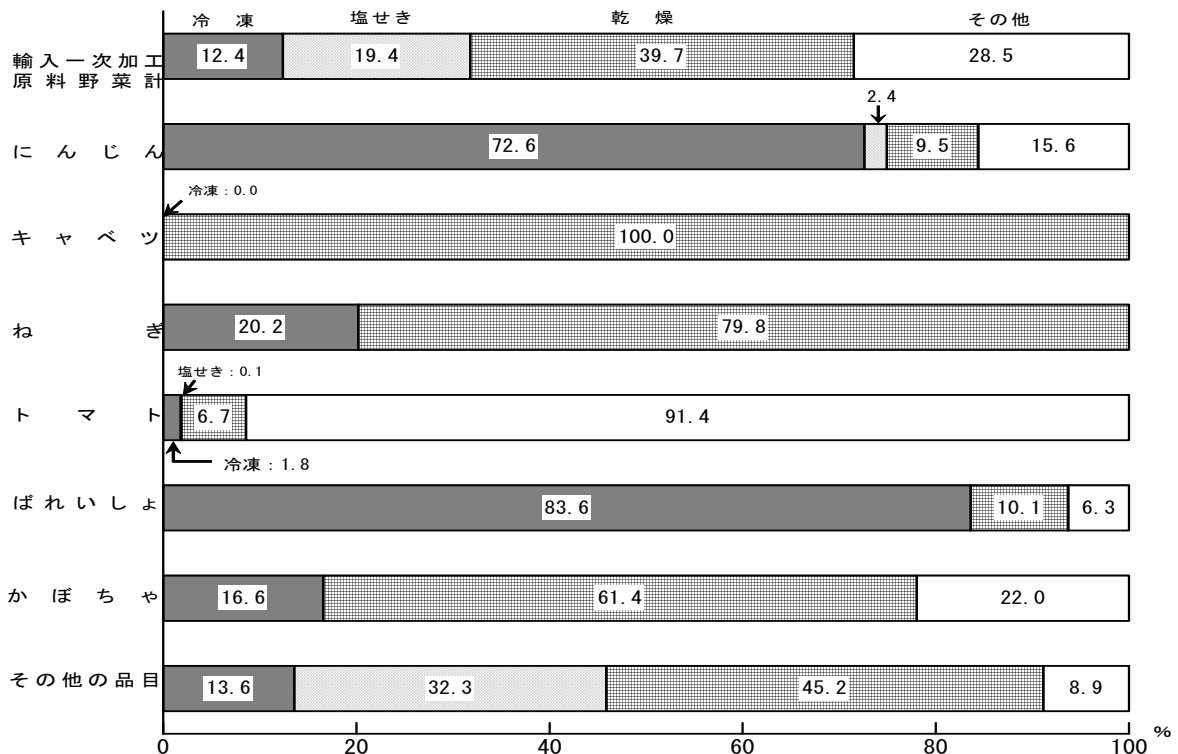


注：（ ）内は食品製造業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

(ウ) 仕入形状別の仕入量割合（生換算重量）

品目別に仕入形状別の割合（生換算重量）をみると、みそ汁、ラーメン等即席具材の原材料等となる乾燥での仕入割合が39.7%と最も高く、品目別ではキャベツが100.0%、ねぎが79.8%となっている。また、惣菜品の原材料等となる冷凍での仕入割合は12.4%となっており、品目別では、ばれいしょが83.6%、にんじんが72.6%となっている。

図10 輸入一次加工原料野菜品目別仕入形状別仕入量割合（生換算重量）



## (2) 食品小売業の仕入状況

### ア 生鮮野菜

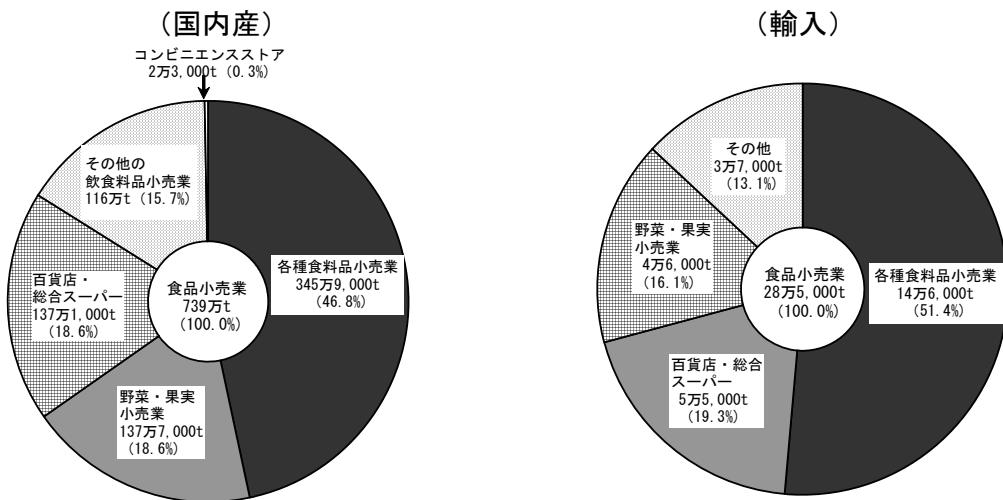
#### (ア) 仕入量

食品小売業における生鮮野菜の仕入量は767万5千tで、国内産が739万t、輸入が28万5千tとなっている。

仕入量を業種小分類別にみると、国内産生鮮野菜では、各種食料品小売業が345万9千tと最も多く仕入れており、食品小売業全体の46.8%を占めている。次いで野菜・果実小売業が137万7千t、百貨店・総合スーパーが137万1千tでともに18.6%を占めている。

輸入生鮮野菜では、各種食料品小売業が14万6千tで食品小売業全体の51.4%と最も高く、次いで百貨店・総合スーパーが5万5千tで19.3%を占めている。

図11 生鮮野菜の業種小分類別仕入量割合

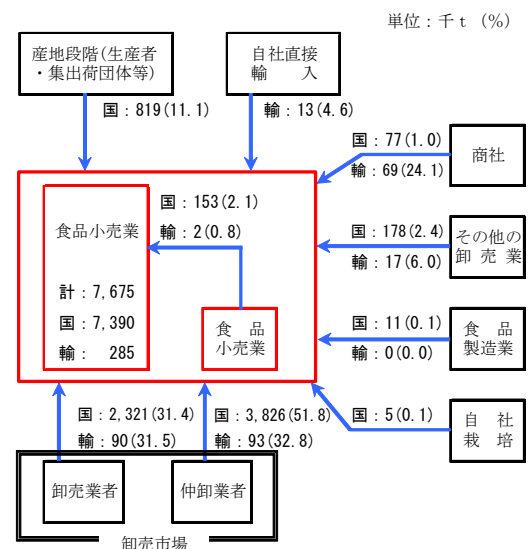


#### (イ) 流通経路

食品小売業における生鮮野菜の仕入先別仕入量割合をみると、国内産は卸売市場からの仕入割合が最も高く83.2%（卸売業者31.4%、仲卸業者51.8%）となっている。業種小分類別にみると、卸売市場からの仕入割合が最も高いのは各種食料品小売業で89.0%（卸売業者36.5%、仲卸業者52.5%）となっており、産地段階からの仕入割合が最も高いのは百貨店・総合スーパーとなっている。

また、輸入についても卸売市場からの仕入割合が64.3%（卸売業者31.5%、仲卸業者32.8%）と最も高いが、業種小分類別でみると、百貨店・総合スーパーにおいては、卸売市場を経由せず商社から直接仕入れる割合が最も高く、50.2%となっている。

図12 生鮮野菜の仕入先別仕入量割合



注：1 ( )内は、食品小売業の国内産・輸入別仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

2 図表中、「国」は国内産、「輸」は輸入のことである。

イ 生鮮果実

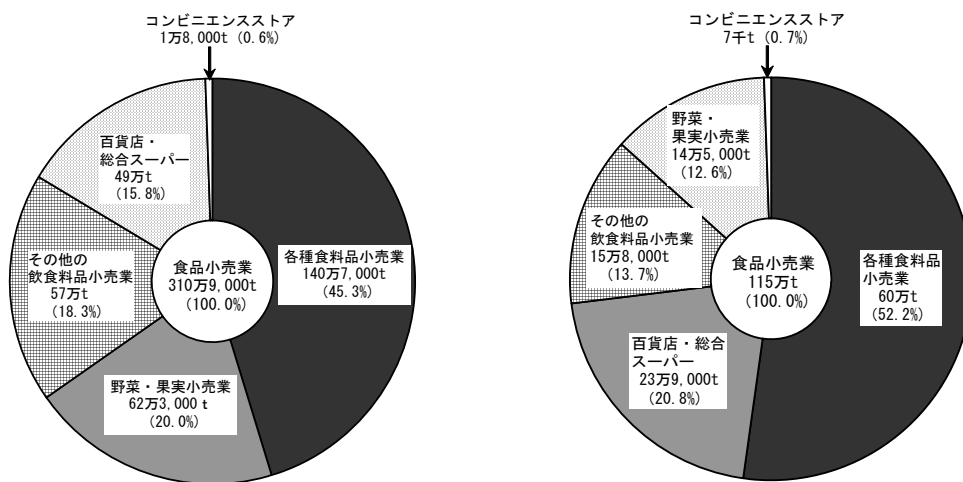
(ア) 仕入量

食品小売業における生鮮果実の仕入量は425万9千tで、国内産が310万9千t、輸入が115万tとなっている。

仕入量を業種小分類別にみると、国内産生鮮果実では、各種食料品小売業が140万7千tと最も多く仕入れており、食品小売業全体の45.3%占めている。次いで野菜・果実小売業が62万3千tで20.0%を占めている。

輸入生鮮果実では、各種食料品小売業が60万tで食品小売業全体の52.2%と最も高く、次いで百貨店・総合スーパーが23万9千tで20.8%を占めている。

図13 国内産生鮮果実の業種小分類別仕入量割合 (国内産) (輸入)

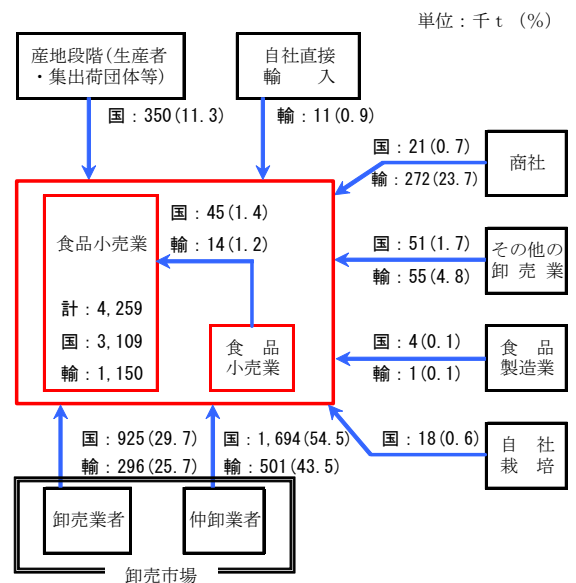


(イ) 流通経路

食品小売業における生鮮果実の仕入先別仕入量割合をみると、国内産は卸売市場からの仕入割合が84.2%（卸売業者29.7%、仲卸業者54.5%）と最も高く、業種小分類別にみてもすべてにおいて卸売市場からの仕入割合が最も高くなっている。

また、輸入についても卸売市場からの仕入割合が69.2%（卸売業者25.7%、仲卸業者43.5%）と最も高く、業種小分類別でみると、特に野菜・果実小売業、各種食料品小売業では、それぞれ97.5%（卸売業者43.1%、仲卸業者54.4%）、80.4%（卸売業者32.4%、仲卸業者48.0%）となっている。一方、百貨店・総合スーパーでは、卸売市場を経由せず商社から直接仕入れる割合が最も高く、65.9%となっている。

図14 生鮮果実の仕入先別仕入量割合



注：1 ( )内は、食品小売業の国内産・輸入別仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

2 図表中、「国」は国内産、「輸」は輸入のことである。

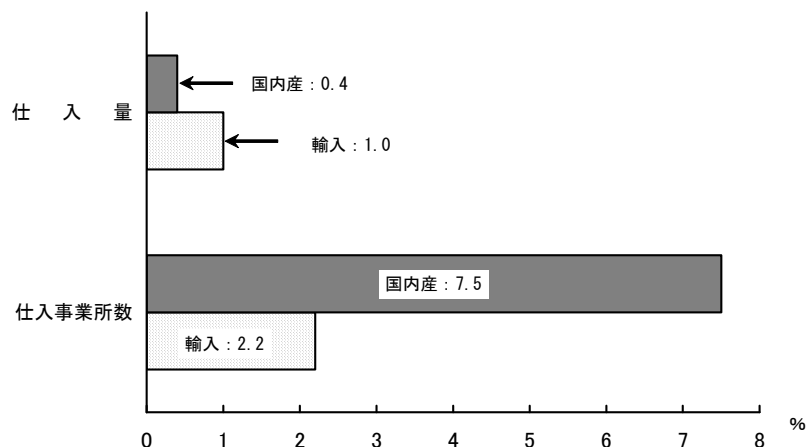


### ウ カット野菜の仕入状況

食品小売業における国内産生鮮野菜の仕入量に占めるカット野菜の仕入量の割合は0.4%となっている。また、カット野菜を仕入れている事業所の割合は7.5%となっている。

一方、輸入生鮮野菜の仕入量に占めるカット野菜の仕入量の割合は1.0%となっており、カット野菜を仕入れている事業所の割合は2.2%となっている。

図15 カット野菜の仕入量割合及び仕入事業所数割合

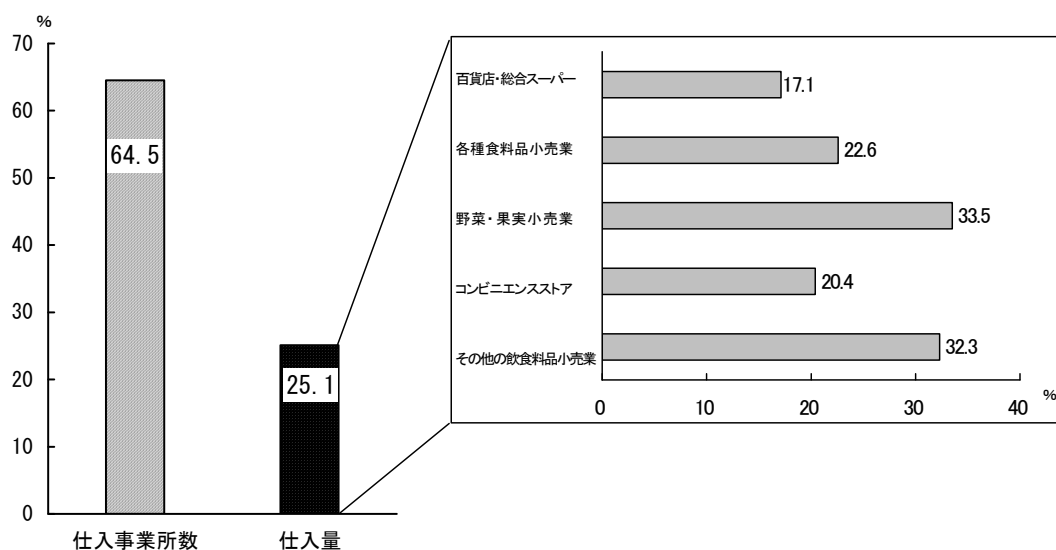


注：国内生鮮野菜または輸入生鮮野菜の仕入量及び仕入事業所数に対する割合である。

### エ 自県産仕入状況

食品小売業における国内産生鮮野菜の仕入量に占める自県産の仕入量の割合は25.1%となっている。また、業種小分類別にみると、野菜・果実小売業で33.5%と最も高くなっている。なお、自県産の野菜を一部でも仕入れている事業所の割合は64.5%となっている。

図16 自県産の仕入量割合及び仕入事業所数割合



注：国内生鮮野菜の仕入量及び仕入事業所数に対する割合である。

(3) 外食産業（一般飲食店（喫茶店を除く））の仕入状況

ア 生鮮野菜

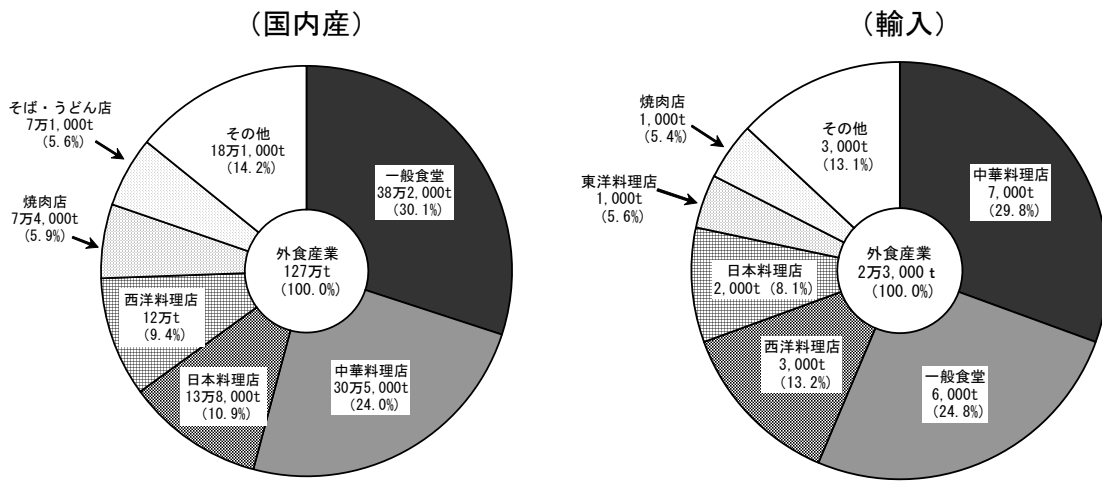
(ア) 仕入量

外食産業における生鮮野菜の仕入量は129万3千tで、国内産が127万t、輸入が2万3千tとなっている。

仕入量を業種小分類別にみると、国内産生鮮野菜では、一般食堂が38万2千tと最も多く仕入れており、外食産業全体の30.1%を占めている。次いで中華料理店が30万5千tで24.0%を占めている。

輸入生鮮野菜では、中華料理店が7千tで外食産業全体の29.8%と最も高く、次いで一般食堂が6千tで24.8%を占めている。

図17 生鮮野菜の業種小分類別仕入量割合

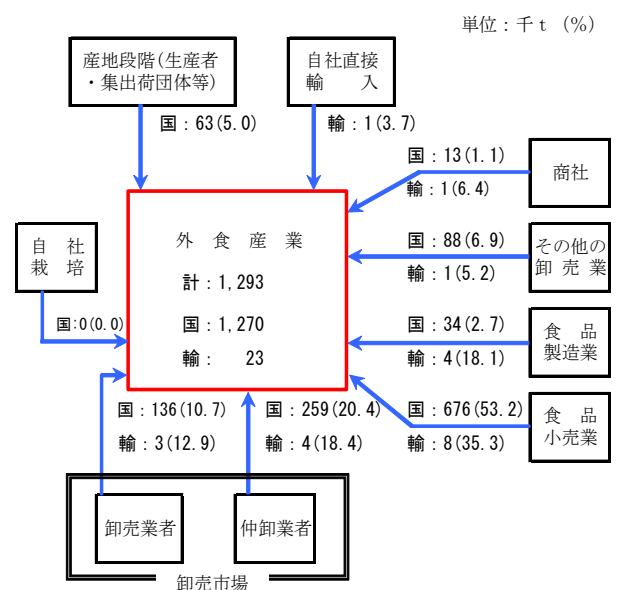


(イ) 流通経路

外食産業における生鮮野菜の仕入先別仕入量割合をみると、国内産は食品小売業からの仕入割合が53.2%と最も高く、業種小分類別にみてもほとんどの業種小分類において食品小売業からの仕入割合が最も高くなっている。

また、輸入についても食品小売業からの仕入割合が35.3%と最も高くなっており、次いで卸売市場からの31.3%（卸売業者12.9%、仲卸業者18.4%）となっている。

図18 生鮮野菜の仕入先別仕入量割合



注：1 ( )内は、外食産業の国内産・輸入別仕入量（延べ仕入量）に対する割合である。  
2 図表中、「国」は国内産、「輸」は輸入のことである。

イ 生鮮果実

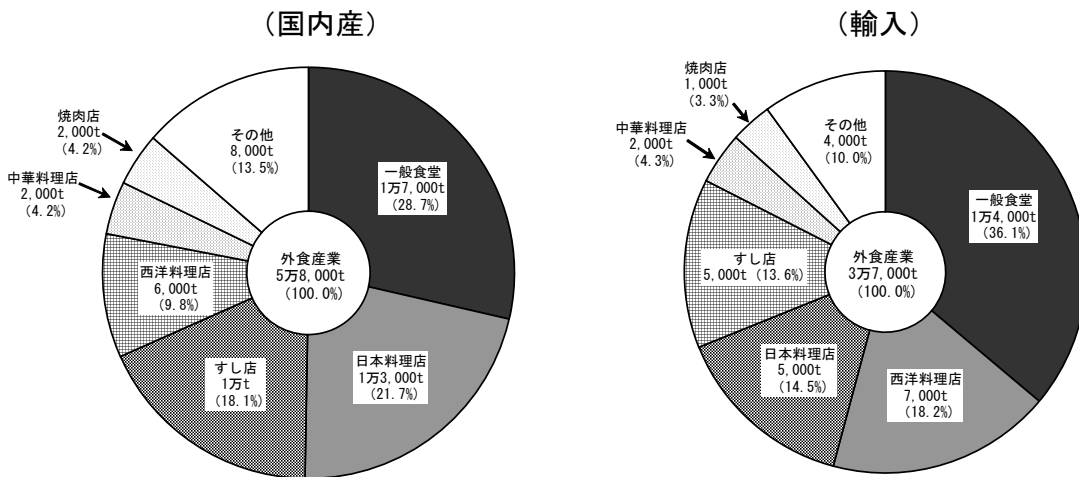
(ア) 仕入量

外食産業における生鮮果実の仕入量は9万5千tで、国内産が5万8千t、輸入が3万7千tとなっている。

仕入量を業種小分類別にみると、国内産生鮮果実では、一般食堂が1万7千tと最も多く仕入れており、外食産業全体の28.7%を占めている。次いで日本料理店が1万3千tで21.7%を占めている。

輸入生鮮果実では、一般食堂が1万4千tで外食産業全体の36.1%と最も高く、次いで西洋料理店が7千tで18.2%を占めている。

図19 生鮮果実の業種小分類別仕入量割合

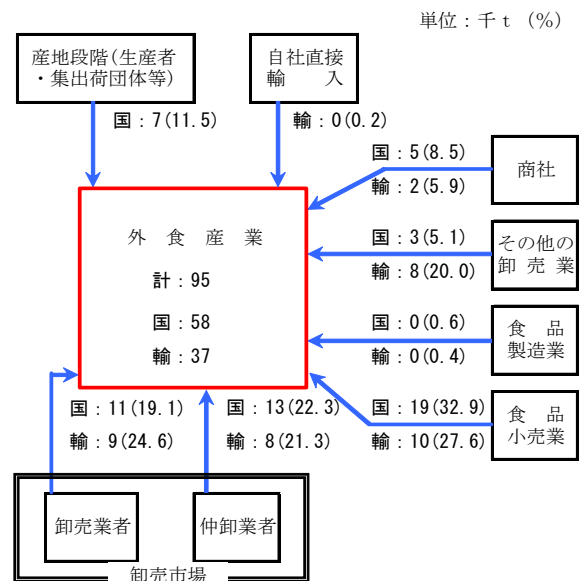


(イ) 流通経路

外食産業における生鮮果実の仕入先別仕入量割合をみると、国内産は卸売市場からの仕入割合が41.4% (卸売業者19.1%、仲卸業者22.3%) と最も高く、次いで食品小売業の32.9%となっている。

また、輸入についても卸売市場からの仕入割合が45.9% (卸売業者24.6%、仲卸業者21.3%) と最も高くなっており、次いで食品小売業の27.6%となっている。

図20 生鮮果実の仕入先別仕入量割合



注：1 ( ) 内は、外食産業の国内産・輸入別仕入量 (延べ仕入量) に対する割合である。

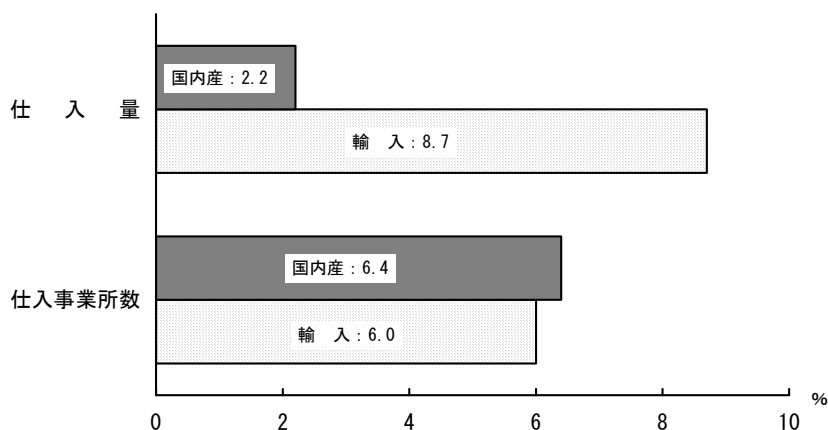
2 図表中、「国」は国内産、「輸」は輸入のことである。

### ウ カット野菜の仕入状況

外食産業における国内産生鮮野菜の仕入量に占めるカット野菜の仕入量の割合は2.2%となっている。また、カット野菜を仕入れている事業所の割合は6.4%となっている。

一方、輸入生鮮野菜の仕入量に占めるカット野菜の仕入量の割合は8.7%となり、業種小分類別にみると、日本料理店及び西洋料理店でそれぞれ8.7%、5.6%と高くなっている。また、カット野菜を仕入れている事業所の割合は6.0%となっている。

図21 カット野菜の仕入量割合及び仕入事業所数割合

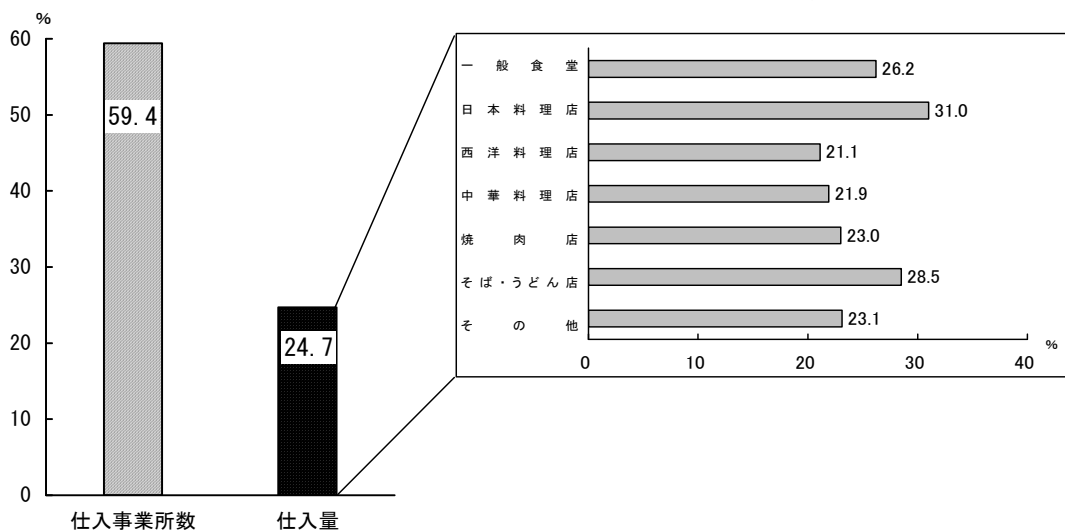


注：国内生鮮野菜または輸入生鮮野菜の仕入量及び仕入事業所数に対する割合である。

### エ 自県産仕入状況

外食産業における国内産生鮮野菜の仕入量に占める自県産の仕入量の割合は24.7%となっている。また、業種小分類別にみると、日本料理店で31.0%と最も高くなっている。なお、自県産の野菜を一部でも仕入れている事業所の割合は59.4%となっている。

図22 自県産の仕入量割合及び仕入事業所数割合



注：国内生鮮野菜の仕入量及び仕入事業所数に対する割合である。

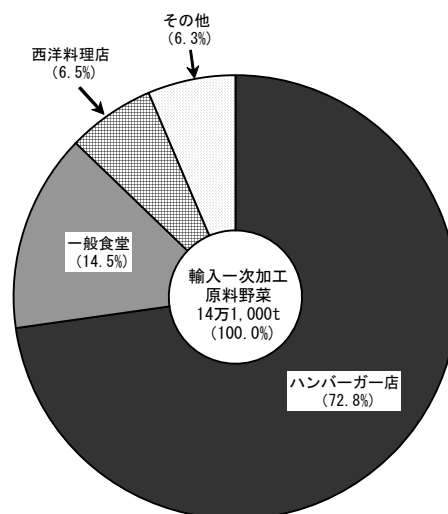
オ 輸入一次加工原料野菜

(ア) 仕入量 (実重量)

外食産業における輸入一次加工原料野菜の仕入量 (実重量) は14万1千tで、業種小分類別の仕入量をみると、ハンバーガー店が72.8%と最も多く仕入れている。

図23 輸入一次加工原料野菜の業種小分類別

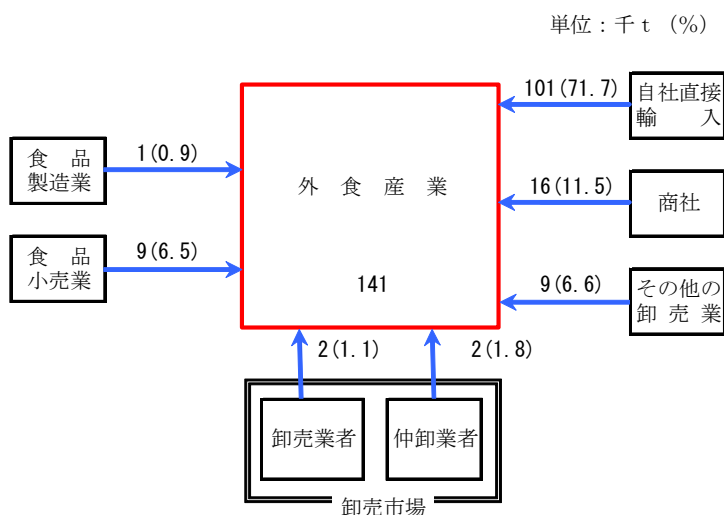
仕入量割合 (実重量)



(イ) 流通経路 (実重量)

外食産業における輸入一次加工原料野菜の仕入先別仕入量割合をみると、自社直接輸入の仕入割合が71.7%と最も高くなっている。

図24 輸入一次加工原料野菜の仕入先別仕入量割合 (実重量)

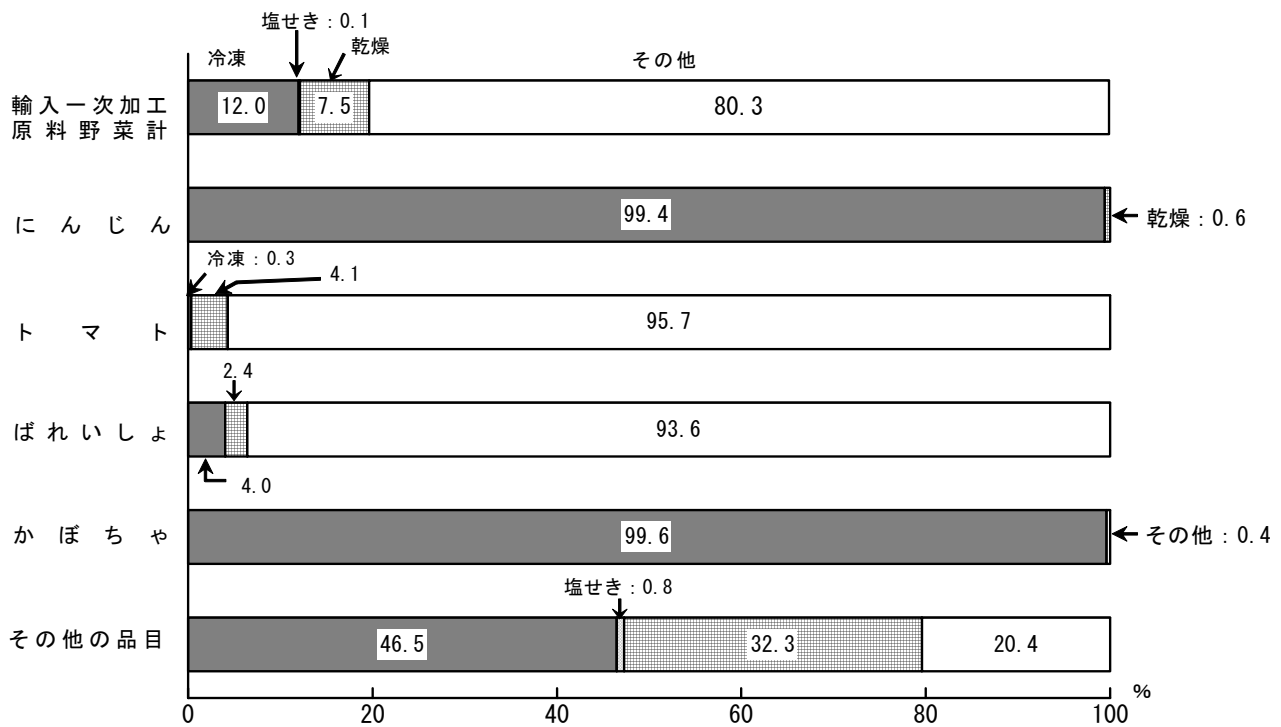


注： ( ) 内は外食産業の仕入量 (延べ仕入量) に対する割合である。

(ウ) 仕入形状別の仕入量割合（生換算重量）

品目別に仕入形状別の割合（生換算重量）をみると、その他での仕入割合が80.3%と最も高く、品目別では、ペースト、ピューレ等の原材料となるトマトが95.7%、フライ等の調理品の原材料等となるばれいしょが93.6%となっている。

図25 輸入一次加工原料野菜の品目別仕入形状別仕入量割合（生換算重量）



#### (4) 食品卸売業の仕入状況

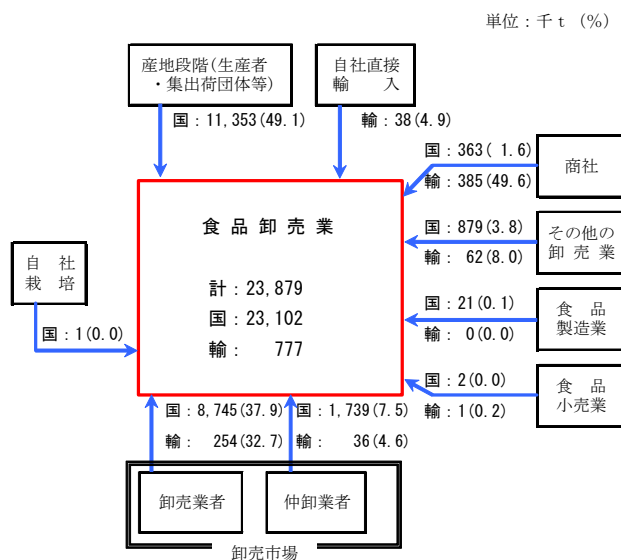
##### ア 生鮮野菜の仕入量及び流通経路

食品卸売業における生鮮野菜の仕入量は2,387万9千tで、国内産が2,310万2千t、輸入が77万7千tとなっている。

この仕入量を仕入先別仕入量割合で見ると、国内産生鮮野菜では、産地段階からの仕入割合が49.1%と最も高くなっている。

一方、輸入生鮮野菜では、商社からの仕入割合が49.6%と最も高く、次いで卸売市場の卸売業者からの32.7%となっている。

#### 図26 生鮮野菜の仕入先別仕入量割合



注：1 ( )内は、食品卸売業の国内産・輸入別仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。  
2 図表中、「国」は国内産、「輸」は輸入のことである。

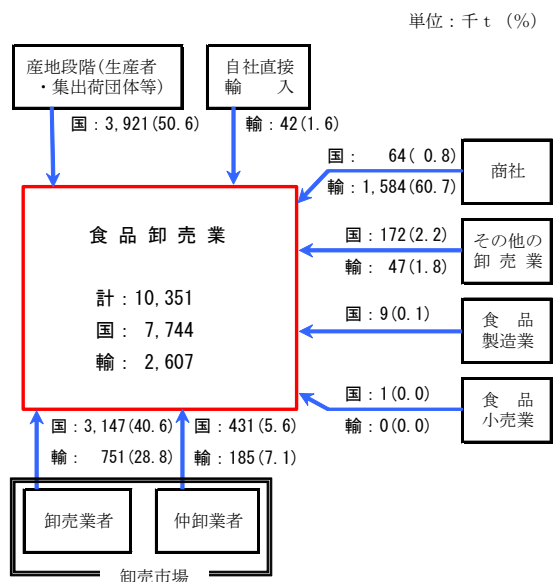
##### イ 生鮮果実の仕入量及び流通経路

食品卸売業における生鮮果実の仕入量は1,035万1千tで、国内産が774万4千t、輸入が260万7千tとなっている。

この仕入量を仕入先別仕入量割合で見ると、国内産生鮮果実では、産地段階からの仕入割合が50.6%と最も高くなっている。

一方、輸入生鮮果実では、商社からの仕入割合が60.7%と最も高くなっている。

#### 図27 生鮮果実の仕入先別仕入量割合



注：1 ( )内は、食品卸売業の国内産・輸入別仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。  
2 図表中、「国」は国内産、「輸」は輸入のことである。

(5) 仕入先別の事業所数割合

ア 生鮮野菜

国内産生鮮野菜の仕入先別事業所数割合をみると、食品製造業では産地段階から仕入れている事業所が35.3%、食品卸売業では卸売市場の卸売業者から仕入れている事業所が74.9%、食品小売業では同38.7%、外食産業では食品小売業から仕入れている事業所が74.6%とそれぞれ最も高くなっている。

一方、輸入生鮮野菜については、食品製造業では商社から仕入れている事業所が31.8%、食品卸売業では卸売市場の卸売業者から仕入れている事業所が74.1%、食品小売業では同47.3%、外食産業では食品小売業から仕入れている事業所が70.0%とそれぞれ最も高くなっている。

表1 生鮮野菜の仕入先別事業所数割合

単位：%

業種	産地段階	自 社 直接輸入	食 品 卸 売 業				食 品 製造業	食 品 小売業	自社栽培
			卸売市場		商社	その他の 卸 売 業			
			卸売業者	仲卸業者					
<b>国内産生鮮野菜</b>									
食品製造業	35.3	-	19.6	24.0	6.2	9.9	19.5	28.9	2.2
食品卸売業	30.9	-	74.9	50.1	5.7	9.9	2.2	1.0	0.3
食品小売業	17.3	-	38.7	36.7	1.8	11.5	2.6	23.7	0.4
外食産業	18.1	-	9.9	17.2	0.9	6.7	4.3	74.6	0.6
<b>輸入生鮮野菜</b>									
食品製造業	-	1.3	12.8	24.1	31.8	18.3	28.8	13.0	-
食品卸売業	-	2.4	74.1	36.7	13.7	5.0	1.0	0.6	-
食品小売業	-	2.4	47.3	44.4	6.7	8.9	0.4	10.2	-
外食産業	-	1.5	8.0	15.7	4.0	6.8	5.4	70.0	-

注：仕入先が複数ある事業所があるため、仕入先別事業所数割合の計は100%にならない（以下の表2,3においても同じ。）。

イ 輸入一次加工原料野菜

輸入一次加工原料野菜の仕入先別事業所数割合をみると、食品製造業では商社から仕入れている事業所が57.7%、外食産業では食品小売業から仕入れている事業所が42.1%とそれぞれ最も高くなっている。

表2 輸入一次加工原料野菜の仕入先別事業所数割合

単位：%

業種	自 社 直接輸入	食 品 卸 売 業				食 品 製造業	食 品 小売業
		卸売市場		商社	その他の 卸 売 業		
		卸売業者	仲卸業者				
食品製造業	6.0	2.9	2.8	57.7	18.1	23.7	7.3
外食産業	6.6	4.4	11.1	9.1	27.2	4.4	42.1



## ウ 生鮮果実

国内産生鮮果実の仕入先別事業所数割合をみると、食品製造業では産地段階から仕入れている事業所が36.9%、食品卸売業では卸売市場の卸売業者から仕入れている事業所が76.6%、食品小売業では同40.2%、外食産業では食品小売業から仕入れている事業所が64.8%とそれぞれ最も高くなっている。

一方、輸入生鮮果実については、食品製造業では食品小売業から仕入れている事業所が45.7%、食品卸売業では卸売市場の卸売業者から仕入れている事業所が69.7%、食品小売業では卸売市場の仲卸業者から仕入れている事業所が39.5%、外食産業では食品小売業から仕入れている事業所が56.7%とそれぞれ最も高くなっている。

表3 生鮮果実の仕入先別事業所数割合

単位：%

業種	産地段階	自社 直接輸入	食品卸売業				食品 製造業	食品 小売業	自社栽培
			卸売市場		商社	その他の 卸売業			
			卸売業者	仲卸業者					
<b>国内産生鮮野菜</b>									
食品製造業	36.9	-	10.6	17.1	2.8	11.3	4.4	32.4	1.7
食品卸売業	28.7	-	76.6	44.7	3.3	7.7	1.2	0.9	-
食品小売業	17.9	-	40.2	36.7	1.2	12.6	1.3	17.7	1.1
外食産業	13.4	-	9.3	20.5	0.7	7.8	0.8	64.8	-
<b>輸入生鮮野菜</b>									
食品製造業	-	2.4	10.2	14.9	11.4	13.0	5.9	45.7	-
食品卸売業	-	1.8	69.7	41.8	14.7	5.8	-	0.2	-
食品小売業	-	1.4	37.7	39.5	4.5	12.4	2.3	16.1	-
外食産業	-	1.2	11.4	25.3	5.4	6.4	0.6	56.7	-

### 3 主要品目別の仕入状況

#### (1) 国内産主要品目の仕入量及び流通経路

##### ア トマト

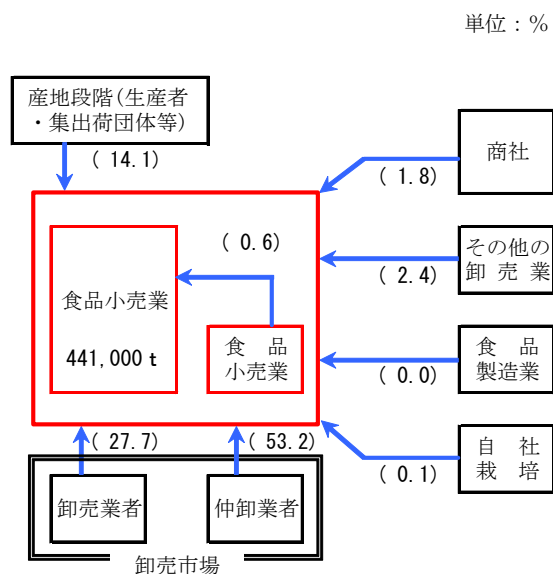
トマトについて食品卸売業を除く3業種における仕入量をみると、食品小売業が44万1千tで最も多く仕入れており、次いで食品製造業が14万1千t、外食産業が4万6千tとなっている。

この仕入量を仕入先別仕入量割合で見ると、食品小売業においては卸売市場からの仕入割合が80.9%（卸売業者27.7%、仲卸業者53.2%）と最も高くなっている。

一方、食品製造業においては産地段階からの仕入割合が82.6%と最も高くなっている。

また、外食産業においては食品小売業からの仕入割合が48.6%と最も高く、次いで卸売市場からの36.0%（卸売業者12.7%、仲卸業者23.3%）となっている。

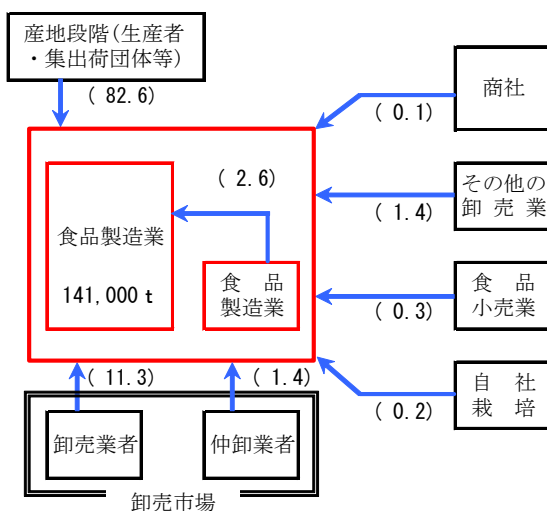
図28 食品小売業における国内産トマトの仕入先別仕入量割合



注：（ ）内は食品小売業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

図29 食品製造業における国内産トマトの仕入先別仕入量割合

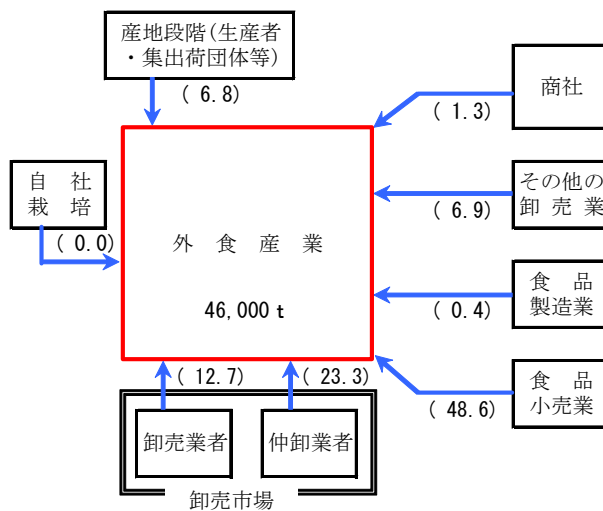
単位：%



注：（ ）内は食品製造業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

図30 外食産業における国内産トマトの仕入先別仕入量割合

単位：%



注：（ ）内は外食産業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

イ レタス

レタスについて食品卸売業を除く3業種における仕入量をみると、食品小売業が37万2千tで最も多く仕入れており、次いで外食産業が6万7千t、食品製造業が4万tとなっている。

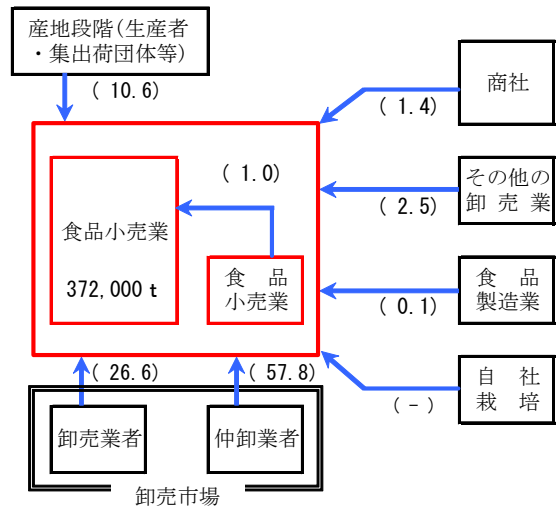
この仕入量を仕入先別仕入量割合で見ると、食品小売業においては卸売市場からの仕入割合が84.4%（卸売業者26.6%、仲卸業者57.8%）と最も高くなっている。

一方、外食産業においては食品小売業からの仕入割合が39.6%と最も高く、次いで卸売市場からの32.0%（卸売業者11.8%、仲卸業者20.2%）となっている。

また、食品製造業においては卸売市場からの仕入割合が33.8%（卸売業者14.8%、仲卸業者19.0%）と最も高く、次いで産地段階からの29.1%となっている。

図31 食品小売業における国内産レタスの仕入先別仕入量割合

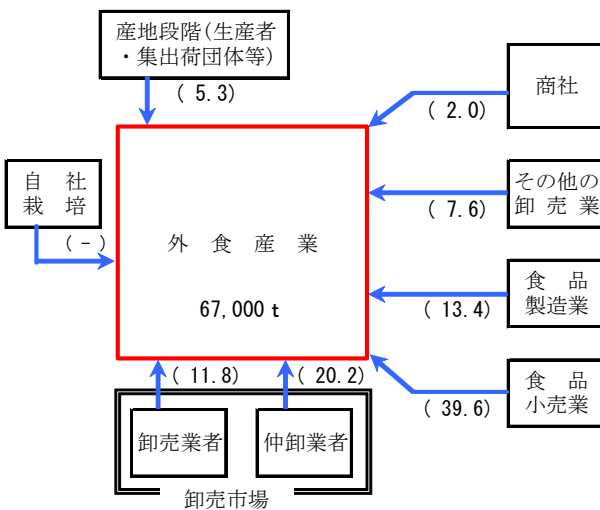
単位：%



注：（ ）内は食品小売業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

図32 外食産業における国内産レタスの仕入先別仕入量割合

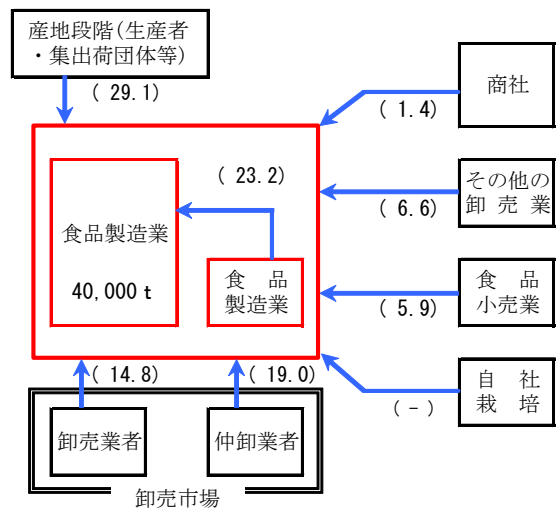
単位：%



注：（ ）内は外食産業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

図33 食品製造業における国内産レタスの仕入先別仕入量割合

単位：%



注：（ ）内は食品製造業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

ウ みかん

みかんについて食品卸売業を除く3業種における仕入量をみると、食品小売業が81万tで最も多く仕入れており、次いで食品製造業が12万2千t、外食産業が8千tとなっている。

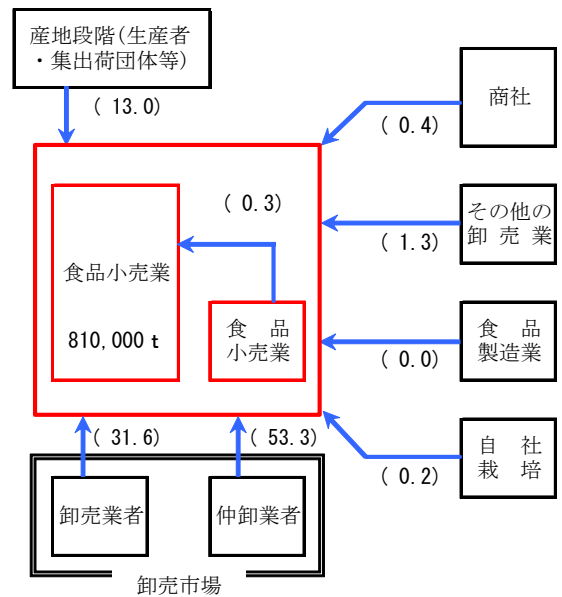
この仕入量を仕入先別仕入量割合で見ると、食品小売業においては卸売市場からの仕入割合が84.9%（卸売業者31.6%、仲卸業者53.3%）と最も高くなっている。

一方、食品製造業においては産地段階からの仕入割合が71.9%と最も高くなっている。

また、外食産業においては卸売市場からの仕入割合が48.0%（卸売業者18.6%、仲卸業者29.4%）と最も高く、次いで食品小売業からの29.5%となっている。

図34 食品小売業における国内産みかんの仕入先別仕入量割合

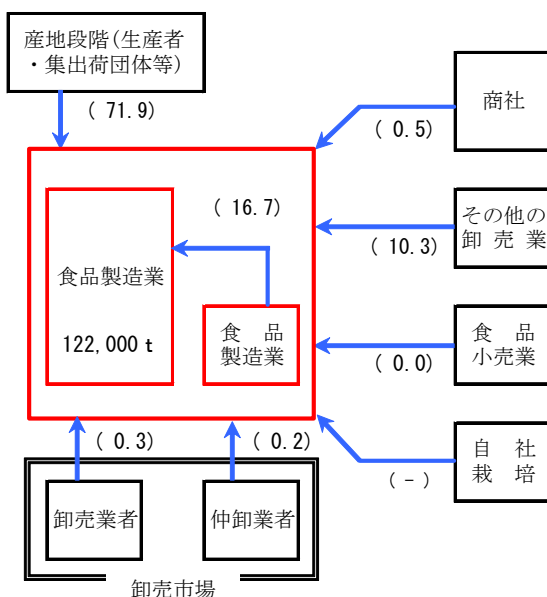
単位：%



注：（ ）内は食品小売業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

図35 食品製造業における国内産みかんの仕入先別仕入量割合

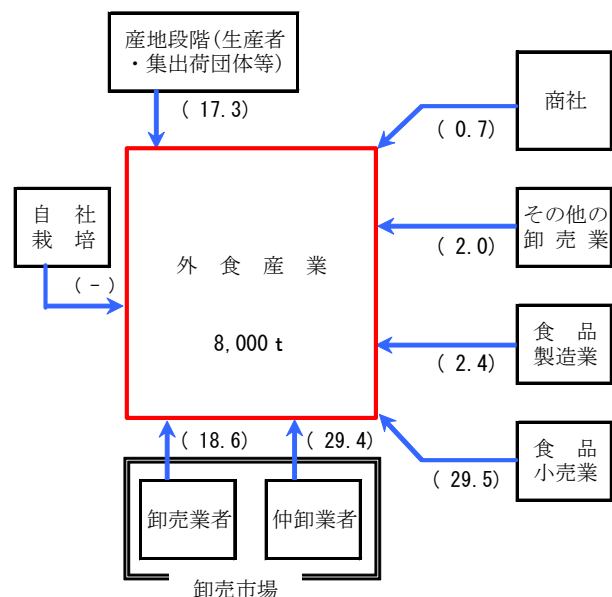
単位：%



注：（ ）内は食品製造業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

図36 外食産業における国内産みかんの仕入先別仕入量割合

単位：%



注：（ ）内は外食産業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

## エ りんご

りんごについて食品卸売業を除く3業種における仕入量をみると、食品小売業が50万1千tで最も多く仕入れており、次いで食品製造業が27万t、外食産業が8千tとなっている。

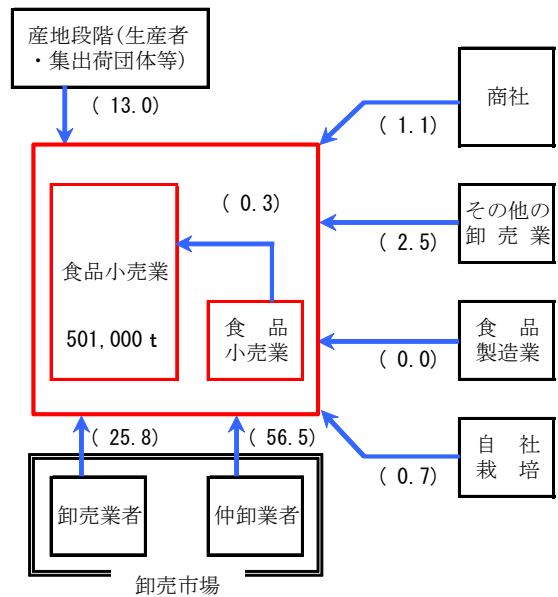
この仕入量を仕入先別仕入量割合で見ると、食品小売業においては卸売市場からの仕入割合が82.3%（卸売業者25.8%、仲卸業者56.5%）と最も高くなっている。

一方、食品製造業においては産地段階からの仕入割合が65.0%と最も高くなっている。

また、外食産業においては食品小売業からの仕入割合が41.5%と最も高く、次いで卸売市場からの40.1%（卸売業者18.8%、仲卸業者21.3%）となっている。

### 図37 食品小売業における国内産りんごの仕入先別仕入量割合

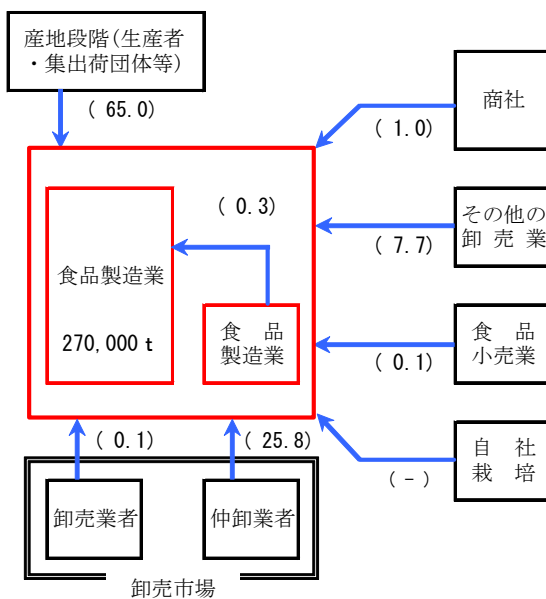
単位：%



注：（ ）内は食品小売業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

### 図38 食品製造業における国内産りんごの仕入先別仕入量割合

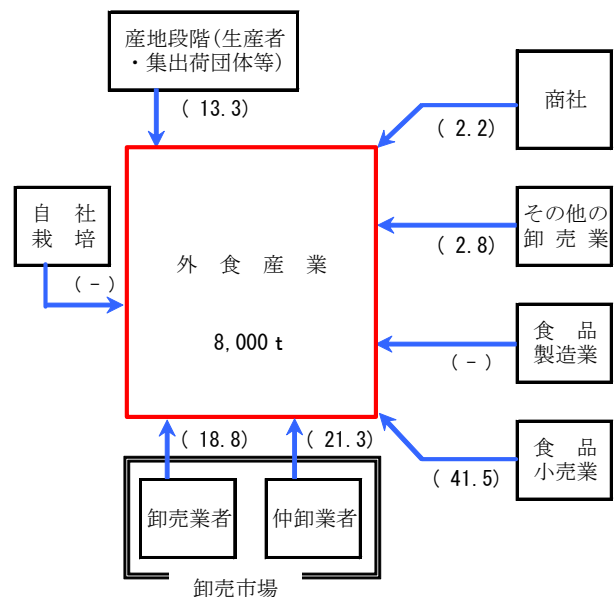
単位：%



注：（ ）内は食品製造業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

### 図39 外食産業における国内産りんごの仕入先別仕入量割合

単位：%



注：（ ）内は外食産業の仕入量(延べ仕入量)に対する割合である。

(2) 生鮮野菜の業種別国内産・輸入別仕入量割合

生鮮野菜の主な品目における国内産と輸入の仕入量割合についてみると、ねぎは、食品小売業及び外食産業においては、国内産がほとんどを占めているが、食品製造業においては、輸入が40.1%と高い割合を占めている。また、ブロッコリーは、食品製造業及び食品小売業において輸入の占める割合がそれぞれ46.9%、42.3%と高くなっている。

図40 主要品目の業種別国内産・輸入別仕入量割合

